

NEWS LETTER

横浜災害ボランティアネットワーク会議



編集・発行：横浜災害ボランティアネットワーク会議

〒231-8482 横浜市中区桜木町1-1 横浜市健康福祉総合センター8階

社会福祉法人横浜市社会福祉協議会内

TEL 045-201-8620 FAX 045-201-1620

H P : <http://www.yokohama-saigai-vol-net.jp/archives/>

E-mail: saivol@yokohama-saigai-vol-net.jp



2018年3月発行 No.60

報

告

平成29年度図上シミュレーション訓練を行いました！

地域の防災力向上のために、地域住民に対してDIG（Disaster Imagination Game: 災害図上訓練）を指導できるようになることを目的とし、DIGのより実践的なトレーニングとしてDIT（Disaster Imagination Training）を行いました。また、区災害ボランティアセンターの立上げを想定し、横浜市災害ボランティア支援センターに情報伝達するまでの確認も行いました。

日 時：平成30年2月10日（土）13時00分～16時00分

場 所：横浜市健康福祉総合センター 8階大会議室A・B・F

参加者：60名

講 師：NPO法人神奈川災害ボランティアネットワーク



挨拶をする河西代表

今回は金沢区をモデルとし、9グループに分かれてDIGを実施しました。

まずは講師の進行で訓練の目的を確認し、訓練が始まりました。金沢区の防災計画や地図、今昔マップ、過去の災害の傾向等の説明が講師からあった後、グループごとに防災マップ等を見ながら被害状況を地図に落とし込んで地域ごとの被害想定を確認をしました。

その後、災害ボランティアセンターをどこに設置したら良いかを各グループで検討しました。被害想定が書き込まれた地図を見ながら、こっちの方が良いのではないかと、あちらの建物の方が安全なのではないかと活発に意見交換がされていました。

各グループで設定した災害ボランティアセンターの設置場所とその理由を発表し、「災害ボランティアセンター立上げ状況報告書」をグループごとに記載し、それに基づき、別室に設けた横浜市災害ボランティア支援センターにトランシーバーを使い災害ボランティアセンターの立上状況の報告をしました。

支援センターでは、聞き取った内容を①一覧に取りまとめる、②市民局に無線で報告する、③支援センターホームページに随時情報を掲載するというを行いました。



地図を投影しながら説明



地図に落とし込みの作業

最後には災害ボランティアセンターの設置場所を決めるにあたってどのように考えたか、DIGの指導を自分たちが行うにあたってどう感じたか感想を発表してもらい以下のような意見が出されました。

- ◆自分の区に持ち帰ってぜひやってみようと思った。地図の見方など勉強になった。
- ◆町内会や地域と何ができるか、そこまで考えないと意味がないと思った。
- ◆自分の区でも是非やりたい。今の災害ボランティアセンターの設置場所は危険だと思う。再度考える必要があるのではないかと感じた。
- ◆災害ボランティアセンターのサテライトをどうするのか等、行政や社会福祉協議会と真剣に考えないといけないと思った。

今後も横浜災害ボランティアネットワーク会議では、シミュレーション訓練等を重ね、地域の防災力向上を目指していきます。

活動紹介

横浜災害ボランティアネットワーク会議

会員紹介

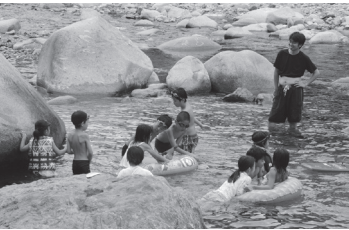
横浜災害ボランティアネットワーク会議には平成30年3月現在83団体12個人の会員が加入しています。今回は4団体の会員の活動紹介をさせていただきます。

横浜市健民少年団

当団は、1950年、戦後の混乱の中、地域の有志が「心身ともに健康な市民を育てよう」と始めた「子どもの遊び場運動」を組織化して結成された、青少年の健全育成を目的として活動を行っている団体です。

団員は小学校1年生以上の男・女で、18歳以上は指導者として活動に参加しています。組織的には行政区ごとに管区、その中に隊を設けています。

綱領に、強い身体を作る、自然を愛する、独立心を養う、良い社会を作る、の四つを掲げています。活動内容は野外活動が中心で、新しい団員を歓迎する入団式に始まり、ハイキング、キャンプ、スポーツ（山登り、スキー、スケート）、クリスマス会、新春の会などの他、地域の清掃、共同募金などの奉仕活動を行っています。



キャンプ

上部団体に NPO 法人日本健民少年団連合があり、毎年開かれる全国大会（交歓会）と青年指導員研修会に毎年参加をしています。

災害に関する活動としては、横浜市消防局の横浜市民防災センターや海上保安庁の横浜海上防災基地などの見学を通して、啓発活動を行っています。



入団式

南区災害救援ボランティアネットワーク

大災害が発生したとき、区は『南区災害ボランティアセンター』を立上げ、全国から駆けつけてくれるボランティアを受入れ被災者支援を行います。この時、災害対策本部（区役所）と協力し災ボラセンターの運営を中心となって担うのが南区災害救援ボランティアネットワークです。

日頃から、災ボラセンター運営マニュアルの検証やシミュレーション訓練、地域防災拠点が実施する防災訓練や地域のイベントでの周知啓発などの活動を行っています。

【29年度の活動（12月まで）】

・防災ギャザリング：5月13日（土）

防災かるたの担当をし、市民に参加してもらいました。

・南まつり：7月22日（土）、23日（日）

親子でチャレンジ防災クイズを行い、啓発活動を実施しました。子どもに参加賞としてライトペンをプレゼントし、大変喜ばれました。

・南なんデー：10月1日（日）

防災拠点の啓発のため区民生活マップを活用して自分の避難する防災拠点がどこかをシールを貼って確認してもらいました。

・みんなの「わっ！」フェスタ：11月3日（土）

東北物産販売と被災地の写真掲出を行いました。

・徒歩帰宅者支援拠点訓練：11月17日（金）

発生時には南区にある徒歩帰宅者支援拠点開設・運営を南区災害救援ボランティアネットワークが行います。拠点立ち上げの訓練として、機材の確認等を行いました。



南なんデーでの拠点の確認



ロープワークの体験

横浜市子ども会連絡協議会

「子ども会」とは地域を基盤に子どもを会員とし、そこに指導者と育成者が加わり子どもの心身ともに健全育成を図ることを目的として組織され、お楽しみ会やキャンプなどそれぞれが特徴ある活動を行っています。

当会は、そのような地域の子ども会をまとめている、横浜市 18 の各区子ども会が構成員となっており、主に全国子ども会安全共済会の手続きや各区相互の連携を図るための事業をしています。



ジュニアリーダー研修会

その中でも、3月に開催している横浜市全域から作品を募り、およそ7000点の中から優秀作作品98点を表彰する子ども会書道展や、将来の指導者を輩出するべく中学生や高校生のジュニアリーダーの育成に力をいれ研修会などを開催しています。

また「自分の身は自分で守る」ための危険予知トレーニングの一環として、防災マップの作製や防災訓練、避難所体験等も行っています。

今後も少年健全育成のため尽力してまいりますので、皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。



書道展

鶴見区災害ボランティアネットワーク

今回は、年間の主な活動を紹介します。

4月：避難所運営を体験！“HUT”

毎年、災ボラネットワークの総会前に、地域防災拠点役員と区民向けに研修会を開催しています。

今回より、H：避難所 U：運営 T：トレーニング＝「ハッツ」としてゲーム感覚に避難所運営訓練を重視した内容を取り入れました。〔参加者43名〕

9月：小型無線機によるボランティアニーズ受発信訓練

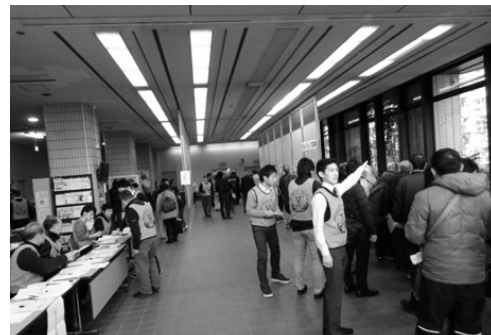
地域防災拠点の訓練メニューの中に入れていただき、7ヶ所の地域防災拠点と訓練を行いました。

11月：「いざ」に備えた行動とは

「鶴見の被害想定は？災害から自らの命を守るには？～」という内容で、県地震被害想定調査委員会委員長の吉井 博明教授をお招きして、地域防災拠点役員と区民向けの研修会を行いました。〔参加者32名〕

1月：鶴見区協働 災害ボランティア受入訓練

区役所1階ホールが開庁前の早朝災害ボランティアセンターになります！区民や登庁してくる区役所職員の皆さんにはボランティア役で参加、地域防災拠点役員にはボランティアニーズの発信訓練とボランティア体験をしていただきました。〔参加者260名〕



災害ボランティア受入訓練

日ごろから様々な活動を通じて、地域の皆様や関係機関の方々と顔の見える関係を作っていけるように心がけていきたいです。

報 告

平成 29 年度 各ブロック研修会

横浜災害ボランティアネットワーク会議では横浜市を4つのブロックに分けて、研修会や訓練を実施しています。

今回は平成 29 年度に行われた各ブロックの取り組みを報告します。

【A ブロック：鶴見・神奈川・西・中・南】

今年度は2回研修を実施しました。

1回目は、神奈川区が幹事となり、各区のマップを使ってDIGのファシリテーターとしての基本訓練の研修を行いました。

西区が幹事となった2回目には、被災地支援に行った看護師を講師に招き、救命について話をしてもらいました。

【B ブロック：港南・磯子・金沢・戸塚・栄】

年3回持ち回りで研修会等を開催しています。1回目は栄区が幹事となり、地域防災拠点との連携について発表をしました。2回目は港南区が幹事となり、港南区版の災害ボランティアセンター運営のシミュレーション訓練を行いました。3回目は磯子区が幹事区となり、ブロックとしてDIGを行い各区の情報交換をしました。

【C ブロック：保土ヶ谷・旭・泉・瀬谷】

年に2～3回情報共有のための会議を設けています。今年度は6月と11月に会議をし、各区の活動状況を発表したり、ホームページの活用方法について意見交換等を行いました。

【D ブロック：港北・緑・青葉・都筑】

今年度は2回港北区が幹事区となり、研修会を行いました。

1回目は熊本、鳥取地震などの取り組みから災害ボランティアセンターの情報発信について講師から話を聞きました。

2回目は常総市の被災状況と災害ボランティアセンターの取組みについてセミナーを行いました。

各ブロックごとに、次年度も連携し、スキルアップしていきます。



Bブロックの災害ボランティア受入訓練

報 告

河西代表 FMヨコハマの取材を受けました！

1月17日にラジオ局FMヨコハマの『街角リポート』のコーナーで、横浜災害ボランティアネットワーク会議 河西代表が取材を受けました。

当日1月17日は阪神・淡路大震災から23年、そして「防災とボランティアの日」ということもあり取材の依頼がありました。災害ボランティアについて河西代表から説明した後、横浜災害ボランティアネットワーク会議が立ち上がったきっかけについて話をしました。

また、翌日18日には鶴見区役所で災害ボランティアセンター立上げシミュレーション訓練を行うことから、災害ボランティアセンターについての説明やセンターを運営する際に気をつけること等について話しました。熊本地震の際に支援に行ったときの経験も含め宿泊場所の確保が必要になること、何よりも地元のニーズを正しく吸い上げることが大事であること、そのためには平時からの連携が重要であること等の河西代表の言葉にリポーターの藤田優一さんも熱心に耳を傾けていました。

今後も横浜災害ボランティアネットワーク会議として周知活動を進めていきたいと思ひます。



FMヨコハマ藤田優一
街角ブログより